

宇宙への トビラを開いた地

鹿児島県肝付町 内之浦 エリア

宇宙・ロケット関連スポット
紹介パンフレット



UCHINOURA
KIMOTSUKI TOWN, KAGOSHIMA

肝付町観光案内所



KIMOTSUKI TOWN MAP

5km

肝付町役場 内之浦総合支所

肝付町観光案内所

内之浦 エリア 中心部
(内之浦ロケットセンター)
JAXA観測所 周辺

各種マップはコチラ

・肝付町へのアクセス
・町内のエリアごとの
店舗マップ など

ご希望の
観光スポットを
観光ガイドが
ご案内します♪

観光ガイド
肝付ふるさと案内人

◆ 料金 (3時間以内のガイドの場合)

1~6人	お1人	500円
7人以上	1団体またはバス1台	3,000円

◆ 申込方法 申込用紙に必要事項を記入し、1週間前までにメールまたはFAXで下記までお送りください。

◆ 申込用紙 上のQRコードを読み取ってウェブサイトからダウンロードするか、下記へお問い合わせください。

編集・発行 株式会社 きもつき未来商社 そらまち

観光情報は
コチラ

※ 12/28 ~ 1/3、
選挙投票日、災害対応時
☎ 0994-67-2888 ☎ 0994-67-2114
info@kankou-kimotsuki.net
@kimotsuki.kankou @kankoukimotsuki @kimokann @kimotsukichannel

12 JAXA 内之浦 宇宙空間 観測所

(内之浦ロケットセンター)

1 まずはここ！ 門衛所 (受付)

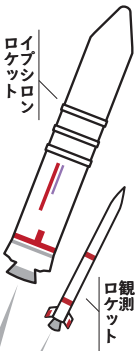


国道 448 号線沿いに施設の門衛所がある。ここで受付をすると、自家用で観光バスなどで施設内へ入り見学することができる。見学について詳しくは右下参照。

5 観測ロケット打上げ場 KSセンター



「おおすみ」が飛び立った地で、現在は観測ロケットの発射場。観測ロケットは衛星打上げ用ロケットとは異なり、ロケット自身が宇宙空間を飛びながら落下するまでの間に観測を行なう。写真右側の発射台は普段は格納されている。



2 地元からの「愛」の象徴 ロケット桜



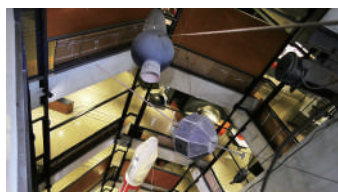
門衛所を入ってすぐ右手に並んでいる寒桜と緋寒桜のことで、1962 年の起工式を記念して地元老人会が植樹したソメイヨシノが台木となっている。冬場にロケット打上げが多かった 1969 年頃、地元出身の観測所職員が「実験班の気持ちを少しでも和らげたい」と 2 月に見頃を迎える桜を接ぎ木することを発案した。

6 イプシロンロケット打上げ場 M ミュー センター



イプシロンの組立や人工衛星の整備などをする組立棟、それらを整備し発射する整備棟がある台地。ごくまれに、整備棟の青と白の扉が開いていたり、写真のように発射台が旋回して外に出ていたりする。M センター入口の「美宇橋」の橋名板には、とある遊び心が。

2 内之浦の歴史が詰まった 宇宙科学資料館



内之浦のロケットの歴史やロケットの部品、構造を知ることができる施設。縦長の特徴的な建物は M センターの組立棟と同じく池辺陽氏の設計で、内部は螺旋階段状になっている。※エレベーター、エスカレーターはありません。

日本でいちばん 地域から愛されている ロケット発射場。

日本の宇宙開発の父・糸川英夫博士の発案で 1962 年 2 月に設立・起工、翌年 12 月に開所した施設。ロケット打上げ場としては世界でも珍しく、山地にある。これまでに大小 400 機以上のロケットと、日本初の人工衛星「おおすみ」や小惑星探査機「はやぶさ」などの 30 機あまりの人工衛星、探査機が飛び立ってきた。種子島宇宙センターが大型の液体燃料ロケットで主に実用衛星を打ち上げているのに対し、内之浦では固体燃料ロケットで、宇宙空間の観測や実験に使用する衛星などを打ち上げるのが主流だ。

さらに近年は小型ロケットの射場として運用されており、イプシロンロケットと観測ロケットの打上げやこれらの追跡、データ取得などの役割を担っている。

1960 年、ロケット実験場の候補地を探して全国行脚していた糸川博士が内之浦にやってきた。現地調査の終盤に長坪集落の峠で尿意をもよおした博士は、太平洋に向かって虹を描きながらひらめいた。山を削り橋を架けて、ロケット発射の実験場を作ろう。ここから宇宙を目指すんだ、と。

当時の長坪はまだランプの明かりで暮らしていた時代。内之浦の人々は驚いたが、糸川先生の熱意と、軍事用ではなく学術研究のためという理念に賛同し、射場建設の土木作業や実験班の宿、食事の提供に奔走した。

そして 1970 年、内之浦から飛び立った日本初の人工衛星は「おおすみ」と名付けられた。この土地の人々の応援をずっと忘れないよう、感謝の気持ちを込めて。

現在も、内之浦を含む肝付町は全国有数の「宇宙のまち」として、JAXA はもちろん、教育機関や民間企業などと協力して「宇宙のまちづくり」に取り組んでいる。その根幹で受け継がれているのは、糸川博士が描いた夢と、それを応援してきた先代たちの誇りなのかもしれない……。

次のロケット 打上げはいつ？

JAXAからの発表を要チェック！ 打上げ見学は IHIスペースポート内之浦（裏面 15）などでどうぞ。

JAXA 公式サイト



SPACE & ROCKET GOODS

宇宙のまちへ来た記念に、
肝付町内之浦ゆかりの
宇宙・ロケットグッズはいかが？
ここでしか買えないものもあり！

肝付町内之浦発！ オリジナルグッズ



肝付町宇宙応援 アンバサダー 「宇宙なんちゃら こてつくん」グッズ



JAXA 公式グッズ



-- 買えるお店 -- ※店舗や仕入れ状況により、写真のグッズがないこともあります。

肝付町観光案内所

おみやげショップ 宙の家

10:00 ~ 16:30 ※水曜
肝付町南方 1870-10
0994-45-7371

Instagram



宇宙への トビラを開いた地

＝

鹿児島県肝付町
内之浦
エリア

UCHINOURA
KIMOTSUKI TOWN, KAGOSHIMA PREF.

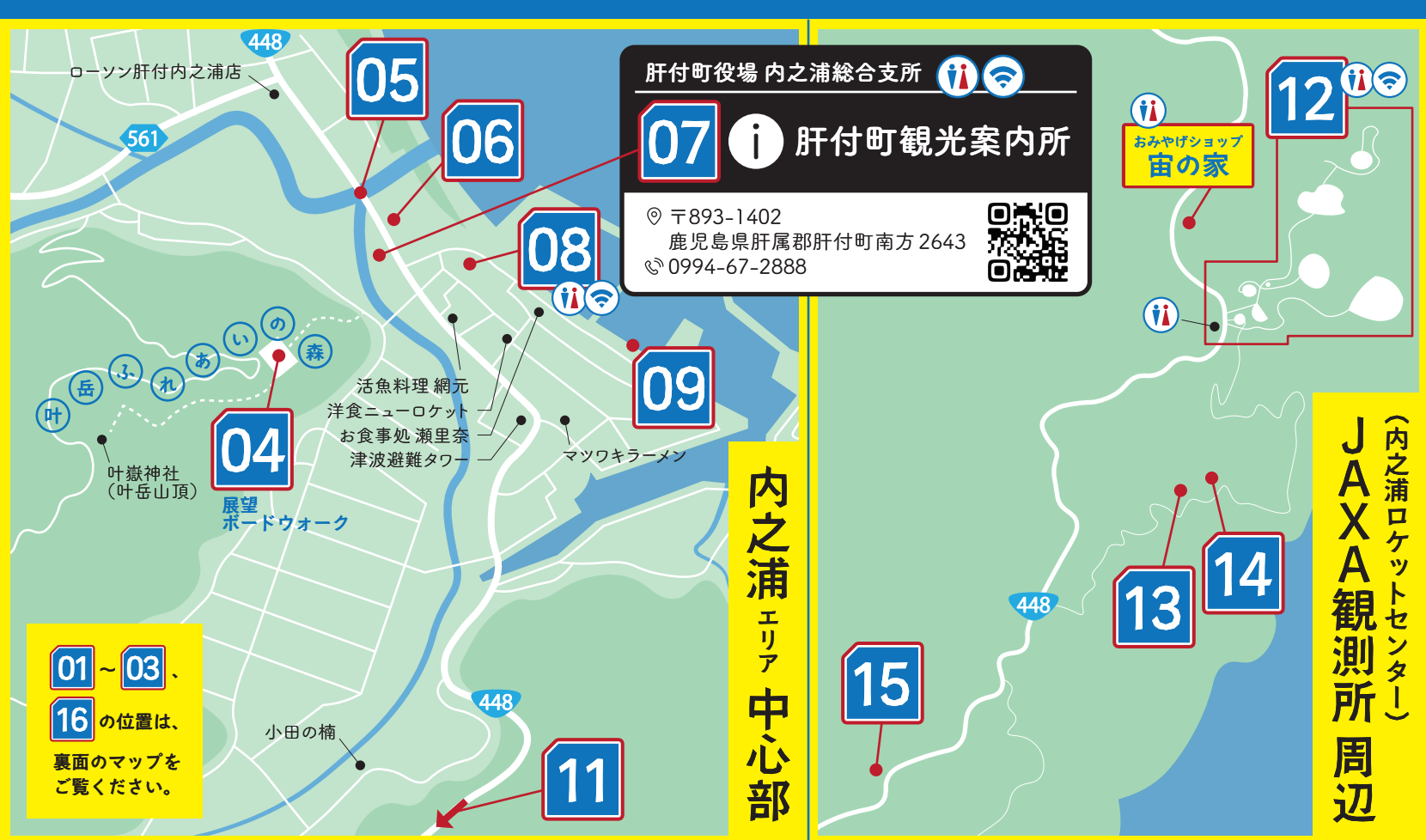
1960年――
「日本の宇宙開発の父」
糸川英夫博士が来訪したことで
幕を開けた、内之浦の
ロケットの歴史。
大小400機以上のロケットが
飛び立ったこの地には、
あちらこちらに
宇宙・ロケットスポットがある。



年表

糸川博士が内之浦と出会うまで。
そして内之浦のロケット関連の略歴。

- 1952.04 サンフランシスコ講和条約の発効により日本は独立し、航空関連の活動解禁。
- 1953.10 糸川博士、ロケット開発への協力会社を探し始めるも、苦戦。
- 1955.03 東京・国分寺にて、ペンシルロケット（全長23cm、直径1.8cm）の初の水平発射実験を実施。その後、実験場所を秋田・道川に移す。
- 1960.10 より高くロケットを飛ばせる土地を探して、糸川博士自ら全国行脚。太平洋に面した北海道から宮崎…、そして最後に旧内之浦町を初訪問。適地がなくあきらめかけていたところ、山中で立ちション中に「ここがいい!」とひらめく。
- 1961.02 旧内之浦町・長坪地区で調査開始。ロケット発射場建設に地元住民は驚くも、糸川博士の説得により全面協力!
- 1962.02 鹿児島宇宙空間観測所、設立。記念に起工式で第1機目のロケット打上げが行われる（小型ロケット OT-75-1）。
- 1970.02 L-4S-5により日本初の人工衛星「おおすみ」打上げ。
- 1999.02 糸川博士、87歳で死去。
- 2003.05 M-V-5により小惑星探査機「はやぶさ」打上げ。
- 2010.06 「はやぶさ」が奇跡の地球帰還。翌日、オーストラリアの砂漠でカプセル回収。
- 2011.01 イプシロンロケットの射場が内之浦に決定!
- 2013.09 イプシロンロケット試験機（1号機）打上げ。
以来、2025年春までに6号機までが打ち上げられている。



01 イプシロンロケットモニュメント

Epsilon Rocket Monument

株式会社IHI エアロスペースによって寄贈された、2.5分の1サイズの精巧な模型。町の900年来の伝統行事・高山流鏝馬にちなんだ「ダブルアロー」は2号機の象徴で、一般公募された打上げ応援メッセージが細かくプリントされて実物の機体に貼られた。町の玄関口である笠野交差点そばのランドマーク。

02 荒瀬川・轟の滝

Arase River / Todoro Falls

高山を流れる荒瀬川の途中に轟の滝がある。滝は3段の一枚岩を流れている。2016年にイプシロンロケット2号機で打ち上げられた人工衛星の愛称「あらせ」の命名由来の地。命名の理由は…
①地球周辺の宇宙空間において最も荒々しい高エネルギー粒子に満ちた宇宙の「荒瀬」に漕ぎ出していく衛星であるため
②荒瀬川には鳥の美しい歌声に関わる伝説があり、宇宙の「コーラス(※)」を観測する本衛星にふさわしいため

※宇宙空間に自然に存在する電波の一種。音声に変換すると、小鳥のさえずりのように聞こえる。
※道路が狭く急カーブが続く地域なので要注意。

03 海蔵ふれあいパーク内之浦

Kaizo Park

国道沿いの駐車場。日本初の人工衛星「おおすみ」の模型と、その電波を最初に受信した自動追尾アンテナの実物が設置されている。

04 叶岳ふれあいの森

Mt.Kano Park

内之浦湾を一望できる展望ボードウォークには、ロケットモチーフのアーチやM-Vロケットの模型などが設置されている。また山の向こうには内之浦宇宙空間観測所のパラボラアンテナが見える。



05 内之浦橋

Uchinoura Bridge

内之浦郵便局横の橋の両端がロケット!

06 肝付町立内之浦小学校

Uchinoura Elementary School

校舎外壁に宇宙空間をイメージしたアートが、そして正門前には1965年に立てられたロケットのモニュメントがある。モニュメントの裏には、五輪と「1964」の彫刻が。1963年に現在の内之浦宇宙空間観測所が開所し、翌年に東京五輪が開催された当時の高揚感が伝わってくる。

※敷地内への無断立入や周辺での路上駐車はお控えください。

07 イプシロンロケット紹介コーナー

Epsilon Rocket Info Corner

役場内之浦総合支所1階に、歴代イプシロンロケットの打上げ写真や人工衛星のレプリカ、その他の資料が展示されている。1995年建築の建物外観は宇宙船をイメージしている。

◎ 9:00 ~ 17:00
※ 1/28 ~ 1/3、選挙投票日、避難所開設時

08 内之浦銀河アリーナ

Uchinoura Ginga Arena

建物外観の一部が人工衛星モチーフとなっている。
◎ 平日 9:00 ~ 21:00、土日祝 9:00 ~ 18:00

09 内之浦漁港

Uchinoura Fishing Port

イプシロンロケットの第1段モータは、種子島宇宙センターの工場で最終製造工程と検査を終えて、海路で内之浦漁港へ運ばれる。漁港でトランスポータに降ろされた後、夜間に約4時間かけて慎重に観測所へ搬入される。

10 火崎

Hisaki

⚠ 悪路注意

津代半島の先端部の地名。2013年に内之浦から約7年ぶりに宇宙へ飛び立ったイプシロンロケット試験機に載せられた人工衛星の愛称「ひさき」の命名由来の地。命名の理由は…

- ①内之浦で最初に朝日が当たる場所で、内之浦の新しい夜明けの象徴であるため
- ②内之浦の漁師が漁の安全を祈願する御崎神社があり、旅立つ船の安全な航行の象徴であるため
- ③半島の先端で、衛星形状のイメージと合致するため
- ④衛星の観測対象が、太陽(ひ)の先(さき)であるため

半島先端には火崎灯台がある。
※道路が狭く急カーブが続く地域なので要注意。

11 惑星ロード

Planet Road

内之浦中心部から観測所までの坂道の愛称で、「宇宙へ続く道」をイメージした6つの橋が架けられている。それぞれの橋には太陽系の惑星の名前がつけられており、内之浦中心部を「太陽」と見立て、「地球」から眺めた惑星の配置となっている。橋の親柱のモチーフは、内之浦から打ち上げられ、宇宙開発の一時代を築いた科学衛星やロケットの部品など。

12 JAXA 内之浦宇宙空間観測所

JAXA Uchinoura Space Center

くわしくは裏面へ

13 長坪シェルター

Nagatsubo Shelter

⚠ 悪路注意

観測所が位置する長坪集落の避難用退避室として、イプシロンの前身、M-Vロケットの時代まで使用されていた建物。ルーローの四面体を利用した設計は、東大教授で戦後モダニズムを代表する建築家の故・池辺陽氏によるもの。

※道路が狭く急カーブが続く地域なので要注意。
※通常は施錠されており、建物内部の見学は要相談。



14 長坪観音

Nagatsubo Kan-non

⚠ 悪路注意

長坪集落の観音様。ロケット実験班が打上げ成功を祈願して、ひそかに焼酎を奉納するらしい。1955年のペビーR型ロケット1号機実験の際に糸川博士が自らのお守り札をロケットに載せたことにちなんでいる。「神頼み」ではなく、大事を前にしての余裕を示す「科学者の風流」を表す姿勢なのだから。

※道路が狭く急カーブが続く地域なので要注意。

15 IHI スペースポート 内之浦

IHI Spaceport Uchinoura (Miyabaru Rocket Observatory)

イプシロンロケットや観測ロケットの射点が見える唯一のロケット打上げ見学場。施設名は、イプシロンの開発・製造の中心を担う株式会社IHIエアロスペースがネーミングライツの権利を得て命名した。

※通常は施錠されており、立ち入り不可。

16 岸良海岸

Kishira Beach

白い砂浜が美しい海岸。イプシロンロケット打上げ時の見学場の一つ。普段は静かな浜で、初夏にウミガメが産卵に訪れ、8月に子ガメが孵化して巣立っていく。

※海水浴場ではありません。